

徒然に(二)

岩佐 晴夫

(一六) A週B週

ボクは一日置きに朝シャワーを浴びる仕来りである。日火木土・月水金で一回りとなるわけだから、仮に日火木土をA週とすれば、月水金はB週となる道理である。今週はA週だ、とか、来週はB週だとか、認識することで、生活の中に一つのリズムが生まれる。出身高校の授業が二週単位で回っていたときに身についた教え方である。

ところが、これが最近怪しくなってきたのだ。シャワーは昨日のことだったか、一昨日のことだったか、判然としなくなるのだ。幸い二〇一九年の今年元日がシャワーの日でなかったのは確かだから、これを覚え覚えておけばシャワーの日の混乱は避けることが出来るわけである。

(一七) ほうれん草農家

使う農地の特性などに応じて、農家がほうれん草農家とか、人参農家とかと呼ばれることがある。ちよつと気になったのは、例えば、ほうれん草農家の

場合、あの赤い根のところをどう思うか、ということである。根っからほうれん草が大好きで、赤い根っこも大好きだというお百姓さんもあるに違いないが、中には栽培はするが食べるのは遠慮するという農家もいるかもしれない。因みにボクは赤い根が苦手だ。薄ら甘いところがどうにも性に合わない。

(一八) 墓参

神奈川県高教組(神高教)執行部で組合のイロハを教えていただいた小室実氏がお亡くなりになったのは一九八四年二月二日のことである。翌年一九八五年の一回忌から毎年命日の二月二日には相模原市緑区橋本の小室邸にお線香を上げに行く。三六回忌に当たる今年二〇一九年も同様だったが、不思議なことにこの間二月二日を外したことがない。小学校の時からずっと親友であり続けた岡本行生君の命日は二〇〇〇年四月九日だが、彼の場合も命日に墓参りをする仕来りで、墓参の後どこかでいっぱいやるのも楽しみの一つになっている。なお、両親の遺骨は横浜市港北区岸根の富士記念館に収容されている。永代使用权のある墓地が厚木市の奥にあるが、まだ誰も入っていない。